

一物の見方、考え方—
経営に生かす仏教哲学

青木伸雄

1. まえがき

世の中が、あわただしくなってきた。

混沌とした世界経済の中で経済大国として名実ともに日本の存在がクローズアップされた新しい時代の到来であると同時に中国の追いあげである。

好のむと好のまぬとを問わず日本をとりまく環境が変化してきた。それは円高の経済界への影響であり、レアメタルをめぐる過激な資源ナショナリズム。又、尖閣諸島の問題等、さけて通れない問題が生じている現状である。

尖閣諸島は琉球諸島のうち、西表島の北方約 160 km に点在する無人の小島群で沖縄県石垣市に属する。

中国が領土権を主張しているが付近はカツオの好漁場というより海底資源開発をめぐり対立が続いているという資源ナショナリズムの問題という方が重要だと考えられる。

そこで、中国禅宗の第 6 祖、慧能曹溪大師の「非風非幡」の物の見方、考え方を学び外界の対象の動きに動ぜず正道に徹することであると考える。

太平洋戦争が 1945 年 8 月 15 日終結し、中国が、蒋介石の国民党政府（台湾）と毛沢東の中華人民共和国に分かれたが、国民党政府が日本に対する賠償請求権を放棄し、1972 年に、日中の国交が回復されたとき、中華人民共和国も賠償請求権を放棄している。

戦後 65 年、中国は製鉄、造船分野も今や世界一のシェアの国に成長し GDP（Gross Domestic Product：国内総生産）で世界第 2 位も時間の問題といわれて居り、その発言力も増してきている。

結果として、いえることは、正正堂堂と卑怯な手段を用いず対応すべきであると愚考する。

著者：広島大学生物生産学部講師
元近畿大学産業理工学部客員教授
日本禅画家協会名誉理事
中国少林書画院名誉教授
法号位 法印 禅画位 奥伝
青木伸雄
釋 禳 禪（野風生）
雅号 樹泉

変化を知り、変化を生かすということで物の見方、考え方を述べてきているが、

「行雲流水の実践を語る」、「鬼手仏心を学ぶ」で自己啓発のために、学校の教師仲間を集めて勉学修行の実践をされる女の先生方のことを述べ、やはり、これからの日本を担う若者を教え育くむ姿を知っていただきたいと考え述べることにした。

これからの企業活動も、台頭するアジアの新興国に遅くれをとらない精進、努力が必要である。

たとえば、メディアは円高のデメリットばかり報道し危機をあおっているが、当然メリットも存在する。

メリットを論じ生かさなない経営は、これこそ片よった「風動」であり、「幡動」である。

今すこし、柔軟な思考力が要求されるということで以下、論じることにする。

2. 非風非幡の教え

仏教の物の見方、考え方の 1 つとして禅問答がある。禅問答といえ、一般にちぐはぐで分りにくい問答で、悪るくいえば俗人には珍糞漢糞でわけのわからない問答ととらえられている。

その中の教えに、「非風非幡」という有名な公案（禅宗で参禅者に示して坐禅、工夫思案させる課題）がある。この「非風非幡」の教えは、中国唐時代の僧侶で、中国禅宗の第 6 祖、慧能（六師大師、曹溪大師（638～713））の公案である。

寺の境内で刹幡（吹流しのような大きな旗）が掲げられていた。

